

《中国思想史研究》

京都大學『中国思想史研究』目錄（創刊至第二十八號）

『中国思想史研究』

第二十八号

宗鑑撰『釋門正統』について（西脇常記）

婦人病の医学思想（武田時昌）

『晦庵先生語録大綱領』攷（石立善）

研究ノート黄帝研究（伊藤円）

黄侃〈禮學略説〉詳注稿（一）（池田秀三）

第二十七号-----

点・線・面—六十述学（周桂鈿著・伊藤円訳）

物化小考（末永高康）

荀子の名実論—单名と兼名の問題を中心に—（鄭宰相）

皇帝の權威と儒家—孔子の位置づけをめぐって—（永瀨正是）▲刊号一覧へ

第二十六号-----

劉劭『都官考課』とその批判をめぐって（東川祥丈）

『論衡』と『史通』（福島正）

王陽明の「良知」の再検討（孫路易）

『論衡』の縁よりして日本の縁に及ぶ（周桂鈿著・池田秀三訳）

弔湯浅幸孫先生文（池田秀三）

湯浅幸孫名誉教授著作目録続▲刊号一覧へ

第二十五号-----

歴史伝承に対する王充の事実認識の諸問題（山花哉夫）

『論衡』における河図・洛書について（山口円）

「雑家類小考」（宇佐美文理）

劉宗周の「学言」について—慎独説から誠意説へ—（中純夫）▲刊号一覧へ

第二十四号-----

何休の考えた歴史（内山俊彦）
初期養生説と早期医学－内因論の系譜－（白杉悦雄）
「定命論」考（亀田勝見）
法琳の三教論によせて（中西久味）▲刊号一覧へ

第二十三号

読書筋記三題（吉川忠夫）
前漢期法政に見える法律観についての一考察（東川祥丈）
（豸十區）劉考（村田浩）
中国思想研究者のためのインターネット資源簡介（麥谷邦夫）▲刊号一覧へ

第二十二号

王充の著述意識（山花哉夫）
『周易集解』所引の王弼易注について（仲畑信）
宋代（九六〇～一二七九）における仏教史書（西脇常記）
王蕨の生涯と師承（小笠智章）▲刊号一覧へ

第二十一号

輯佚の難と校讐の難（池田秀三）
文明に至るための権道－梁啓超における宗教と専制－（李惠京）
康有為の「氣」の再検討（孫路易）▲刊号一覧へ

第二十号

伝達者としての欧陽修－減少に赴く思考－（藤井京美）
心と矩－顧憲成における朱子学と陽明学－（中純夫）
明末清初における黄百家の生涯と著作（馮錦栄）▲刊号一覧へ

第十九号－内山俊彦教授退官記念論集－

王充の歴史意識について（内山俊彦）
性善説再考－『孟子』尽心下第二十四章をてがかりに－（末永高康）
雁の四徳について（小林清市）
損益の道、持満の道－前漢における易の台頭－（武田時昌）
『漢書』郊祀志の「泰一」の祭祀について（村田浩）
王肅の災異思想（南澤良彦）
王弼『論語釈疑』について（仲畑信）

「大晋龍興皇帝三臨辟雍皇太子又再莅之盛德隆熙之頌」にみる晋初の礼学とその実践（木島史雄）

山水画と風景詩（宇佐美文理）

『神仙伝』再検討のために—諸本における仙伝の配列から見て—（亀田勝見）

『大道論』攷—唐代道教と洪州禅—（坂内栄夫）

程伊川の思想における〈養気〉をめぐって（小笠智章）

『救荒本草』考（白杉悦雄）

錢緒山の思想について—王龍溪・羅念庵を通じて—（呉震）

顧炎武—礼への復帰—（李惠京）

梁啓超にとってのルネサンス（末岡宏）

内山俊彦教授著作目録▲刊号一覧へ

第十八号-----

『史通』と『資治通鑑』（福島正）

董仲舒春秋災異説の再検討（末永高康）

清末の礼学について—劉師培「逸礼考」をめぐって—（末岡宏）▲刊号一覧へ

第十七号-----

成玄英と三論教学についての一試論（中西久味）

『淮南子』の類（村田浩）

葛洪における運命の問題（亀田勝見）▲刊号一覧へ

第十六号-----

読風俗通義皇霸篇札記（池田秀三）

魏晋における太極論の展開（仲畑信）

程伊川の”気”をめぐって（小笠智章）▲刊号一覧へ

第十五号-----

無善無悪論について—陽明学を中心に—（呉震）

一陰一陽と三陰三陽—象数易と『黄帝内経』の陰陽説—（白杉悦雄）

董仲舒陰陽刑徳説について（末永高康）▲刊号一覧へ

第十四号-----

『管子』における「管仲」の候気の世界（久富木成大）

宋代における『史通』（西脇常記）

『淮南子』と災異説（村田浩）▲刊号一覧へ

第十三号

楊泉とその思想（内山俊彦）

招魂をめぐる礼俗と礼学（木島史雄）

「致知格物」論の構図（柳田裕延）

重澤俊郎博士著作目録▲刊号一覧へ

第十二号

『齐民要術』にみる醸造の呪術（小林清市）

明末における易学の展開－黄道周の『易象正』をめぐる－（馮錦榮）

戴震と西洋暦算学（川原秀城）▲刊号一覧へ

第十一号

漢代の淮南学－劉向と許慎－（池田秀三）

干宝易注の特徴（仲畑信）

劉師培の春秋学（末岡宏）▲刊号一覧へ

第十号

『易緯乾元序制記』所載の易緯佚文について（武田時昌）

王肅の政治思想－「感生帝説」批判の背景－（南澤良彦）

方以智の思想－方氏象数学への思索－（馮錦榮）▲刊号一覧へ

第九号

陸疏の素描（小林清市）

欧陽脩の学問と芸術論（宇佐美文理）

『正蒙』太和篇の一条について－「気」の認識形態－（木下鉄矢）▲刊号一覧へ

第八号

列子與漢魏晋思想（莊萬壽）

『千唐誌齊藏誌』に見える唐代の二三の習俗について（西脇常記）

邵雍と張載の思想における〈神〉の意義（小笠智章）

養老律令考辨二則（湯浅幸孫）▲刊号一覧へ

漢代思想はいかに研究されてきたか（日原利國）

『鍾呂伝道集』と内丹思想（坂内栄夫）

朱子の工夫論について—未発已発の問題をめぐって—（中純夫）

故日原利國教授略歴・著作目録▲刊号一覧へ

第六号

古典の役割（重沢俊郎）

五藏の五行配当について—五行説研究その一—（林克）

『九章算術』の構成と数理（武田時昌）

もう一つの易筮法（川原秀城）▲刊号一覧へ

第五号

六天説の背景（呉二煥）

邵晉涵の歴史学—餘姚邵氏の歴史学その一—（福島正）▲刊号一覧へ

第四号—湯浅幸孫教授退官記念論集

地券徴存考釋（湯浅幸孫）

中国古代詩の修辞と形式—「詩経」の興と疊詠について—（久富木成大）

後漢・四分曆の世界—蔡の律曆思想—（川原秀城）

六朝齊梁の「神不滅論」覚え書—佛性説との交流より—（中西久味）

『史通』疑古篇論考—述者の意識—（福島正）

『陸文學自傳』考（西脇常記）

「打乖」考（三浦国雄）

張載の思想について—「大」と「聖」—（木下鉄矢）

清初の漢人とその処世—詩を以て史を証す—（山口久和）

訓詁の虚と実（池田秀三）

湯浅幸孫教授論著目録▲刊号一覧へ

第三号

「潜夫論」に引く〈魯詩〉について（湯浅幸孫）

『潜夫論』版本小考—特に元大徳本について—（池田秀三）

呂留良と張倬投書案（山口久和）

段玉裁の思考様式（木下鉄矢）▲刊号一覧へ

第二号

思想家としての王廷相—張載と王廷相—（湯浅幸孫）

中唐の思想—権徳輿とその周辺—（西脇常記）

宗炳「明仏論」について—その神不滅論形成の一側面—（中西久味）▲刊号一覧へ

創刊号

序に代えて（湯浅幸孫）

王船山研究其の一—存在論を中心として—（山口久和）

古音学の歴史—学的認識の形成及び深化の過程—（木下鉄矢）

三統暦の世界—經学成立の一側面—（川原秀城）

 [关闭窗口](#)  [发表, 查看评论](#)  [打印本页](#)

发表日期：2008-6-24 浏览人次：119

版权声明：凡本站文章，均经作者与相关版权人授权发布。任何网站，媒体如欲转载，必须得到原作者及Confucius2000的许可。本站有权利和义务协助作者维护相关权益。